

# スマート・クオリティ・オープン・ゴールド (成長型)

愛称：スマラップ・ゴールド

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2018年12月14日～2019年6月13日

第 9 期 決算日：2019年 3 月13日

第 10 期 決算日：2019年 6 月13日

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは、日本を含む世界各国の「株式」、「債券」、「リート」および「金」を実質的な主要投資対象とし、利子収益および配当収益の確保ならびに値上がり益の獲得をめざして運用することを目的としています。「金」の投資信託証券の組入部分については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。ここに運用状況をご報告申し上げます。  
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第10期末 (2019年6月13日)	
基準価額	9,798円
純資産総額	606百万円
第9期～第10期	
騰落率	+2.9%
分配金合計 <sup>(*)</sup>	0円

(\*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufig.jp/>

[ファンド検索] に  
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで  
閲覧およびダウンロード

**MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

# 運用経過

第9期～第10期：2018年12月14日～2019年6月13日

## ▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



第9期首	9,519円
第10期末	9,798円
既払分配金	0円
騰落率	2.9%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

### 基準価額の動き

基準価額は当作成期首と比べ2.9%の上昇となりました。

### ▶ 基準価額の主な変動要因

#### 上昇要因

先進国株式、金が上昇したことなどがプラスに寄与しました。

2018年12月14日～2019年6月13日

▶ 1万口当たりの費用明細

項目	第9期～第10期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	57	0.591	(a) 信託報酬 = 作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (作成期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	(29)	(0.306)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(26)	(0.269)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2)	(0.016)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	3	0.031	(b) 売買委託手数料 = 作成期中の売買委託手数料 ÷ 作成期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
( 投資信託証券 )	( 3)	(0.031)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税 = 作成期中の有価証券取引税 ÷ 作成期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
( 投資信託証券 )	( 0)	(0.000)	
(d) その他費用	1	0.012	(d) その他費用 = 作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 1)	(0.009)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( 監 査 費 用 )	( 0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	( 0)	(0.002)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	61	0.634	

作成期中の平均基準価額は、9,625円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

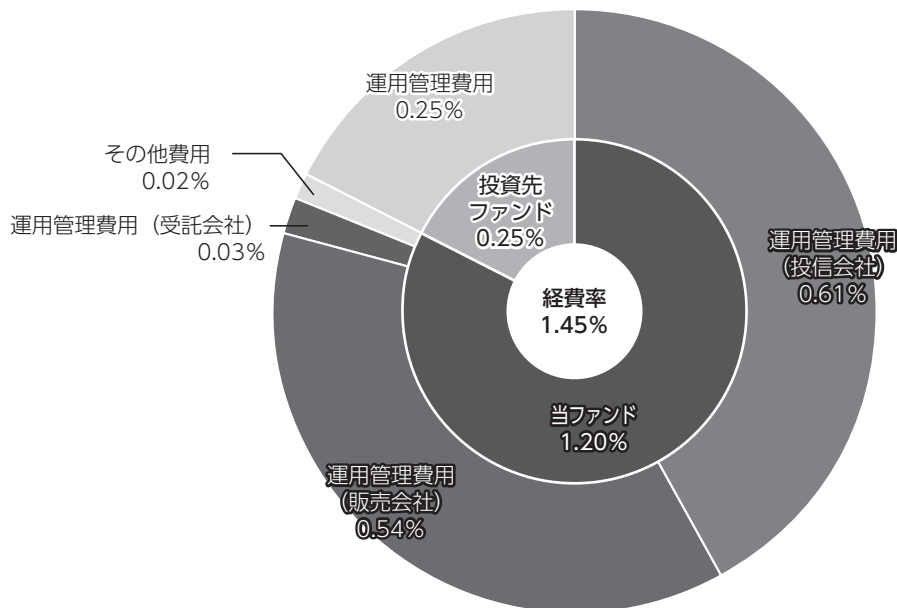
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## （参考情報）

### ■経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**経費率（年率）は1.45%**です。



経費率 (①+②)	(%)	1.45
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.20
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.25

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、前記には含まれておりません。

2014年6月13日～2019年6月13日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、設定時の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

				2017/6/13 期初	2018/6/13 決算日	2019/6/13 決算日
基準価額 (円)	—	—	—	10,000	9,974	9,798
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	—	—	—	700	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	—	—	—	6.8	-1.8
純資産総額 (百万円)	—	—	—	597	383	606

※ファンド年間騰落率は、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※騰落率および期間分配金合計については、年間の値を表示しており、期間が1年に達していない場合には表示していません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第9期～第10期：2018年12月14日～2019年6月13日

## ▶ 投資環境について

### ▶ 国内債券市況

当作成期を通してみると、国内長期金利は低下しました。

米連邦準備制度理事会（F R B）や欧州中央銀行（E C B）がハト派姿勢を示したことや、米国を中心とする貿易問題に対する懸念の高まりなどを背景に低下しました。

### ▶ 国内株式市況

当作成期を通してみると、国内株式市況は下落しました。

当作成期首から2018年12月下旬にかけて下落したものの、12月下旬から2019年4月末にかけては欧米の主要な中央銀行がハト派姿勢を示したことや米中の貿易摩擦問題の進展に対する期待の高まりなどを背景に反発しました。その後、4月末から5月末にかけては米国を中心とする貿易問題に対する懸念の高まりなどを背景に再び下落したものの、5月末から当作成期末にかけては反発しました。当作成期を通してみると、円高の進行などが重石となり下落しました。

### ▶ 国内リート市況

当作成期を通してみると、国内リート市況は上昇しました。

国内長期金利の低下などを背景に上昇しました。

### ▶ 先進国債券市況

当作成期を通してみると、海外先進国の債券利回りは、低下しました。

F R BやE C Bがハト派姿勢を示したことや、米国を中心とする貿易問題に対する懸念の高まりなどを背景に低下しました。

### ▶ 先進国株式市況

当作成期を通してみると、海外先進国株式市況は上昇しました。

当作成期首から2018年12月下旬にかけて下落したものの、12月下旬から2019年4月末にかけては欧米の主要な中央銀行がハト派姿勢を示したことや米中の貿易摩擦問題の進展に対する期待の高まりなどを背景に反発しました。その後、4月末から5月末にかけては米国を中心とする貿易問題に対する懸念の高まりなどを背景に再び下落したものの、5月末から当作成期末にかけては反発し、当作成期を通してみると上昇しました。

▶ **先進国リート市況**

当作成期を通してみると、海外先進国リート市況は上昇しました。  
先進国の債券利回りの低下などを背景に上昇しました。

▶ **新興国債券市況**

当作成期を通してみると、新興国の債券利回りは低下しました。  
米国を中心とする貿易問題に対する懸念の高まりを受け、先進国の債券利回りが低下したことなどから低下しました。

▶ **新興国株式市況**

当作成期を通してみると、新興国株式市況は上昇しました。  
海外先進国株式市況の上昇などを受け、ブラジルやロシアなどを中心に上昇しました。

▶ **金市況**

当作成期を通してみると、金は上昇しました。  
F R B がハト派姿勢を示したことや、米ドルが主要通貨に対して下落したことなどを受けて上昇しました。

▶ **為替市況**

当作成期を通してみると、米ドルは円に対して下落しました。  
米国を中心とする貿易問題に対する懸念や世界経済に対する先行き不透明感の高まりなどを背景に、米ドルは円に対して下落しました。



## ▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

投資信託証券への投資を通じて、主として「国内株式」、「国内債券」、「国内リート」、「先進国株式」、「先進国債券」、「先進国リート」、「新興国株式」、「新興国債券」、「金」の9資産（以下「9資産」ということがあります。）に分散投資を行いました。

9資産への投資にあたっては、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からのアドバイスを基に、当ファンドの目標リスク水準（年率標準偏差12.0%）に応じた9資産の基本資産配分比率を決定し、この比率に基づき、指定投資信託証券の中から選定した投資信託証券に投資を行いました。

「金」の投資信託証券の組入部分については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかりました。

2018年12月および2019年3月に、原則年4回行う基本資産配分比率の見直しを行いました。当作成期を通じて、主に「先進国株式」、「新興国債券」などの配分比率を引き上げる一方、「国内株式」、「新興国株式」などの配分比率を引き下げました。

前記の運用のもと先進国株式、金が上昇し、基準価額は当作成期首と比べて上昇しました。

※指定投資信託証券の決定や投資する投資信託証券の選定等についても、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からアドバイスを受けます。

（ご参考）

■ポートフォリオの状況

資産区分	選定した投資信託証券の名称	作成期首 (2018年12月13日) 比率	作成期末 (2019年6月13日) 比率
国内株式	MUAM インデックスファンドTOPIX i（適格機関投資家限定）	13.8%	11.3%
	日本株式最小分散インデックスファンド（適格機関投資家限定）	14.0%	11.0%
国内債券	MUAM 日本債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	0.4%	0.4%
	国内物価連動国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）	0.0%	0.1%
	MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド（適格機関投資家限定）	0.1%	0.2%
国内リート	国内リートインデックス・ファンド（適格機関投資家限定）	4.9%	3.9%
先進国株式	MUAM 外国株式インデックスファンド（適格機関投資家限定）	17.8%	20.2%
	先進国株式最小分散インデックスファンド（適格機関投資家限定）	9.3%	10.2%
	先進国株式クオリティ・インデックスファンド（適格機関投資家限定）	9.0%	10.0%
先進国債券	MUAM 外国債券インデックスファンド（適格機関投資家限定）	0.4%	0.4%
先進国リート	先進国リートインデックス・ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家限定）	4.7%	4.4%
新興国株式	iシェアーズ エッジ MSCI ミニマム・ボラティリティ・エマージング・マーケット ETF	2.9%	0.8%
	iシェアーズ MSCI エマージング・マーケット ETF	2.8%	0.8%
新興国債券	iシェアーズ J.P.モルガン・米ドル建てエマージング・マーケット債券 ETF	0.5%	8.4%
金	iシェアーズ ゴールド・トラスト	16.7%	16.2%

（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）上記は指定投資信託証券の中から選定した投資信託証券を記載しています。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案し、分配金額を決定します。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。（資金動向や市況動向等により変更する場合があります。）この結果、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第9期 2018年12月14日～2019年3月13日	第10期 2019年3月14日～2019年6月13日
当期分配金（対基準価額比率）	-（-%）	-（-%）
当期の収益	-	-
当期の収益以外	-	-
翌期繰越分配対象額	29	31

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

# 今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

## 運用環境の見通し

米中貿易摩擦問題や英国の欧州連合（EU）離脱問題などのリスク要因に対して、引き続き警戒が必要と考えます。一方、ペースの鈍化がみられるものの、各国政府や中央銀行の景気対策に向けた動きなどを背景に、中長期的にはグローバル経済の拡大と内外リスク資産の緩やかな価格上昇が続くと見込んでおります。

## 今後の運用方針

今後も、経済・金融市場を多角的に分析しつつ、当ファンドが目標とするリスク水準（年率標準偏差12.0%）に応じた基本資産配分比率の維持をめざした運用を行います。

「金」の投資信託証券の組入部分については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。

# お知らせ

## ▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

## ▶ その他

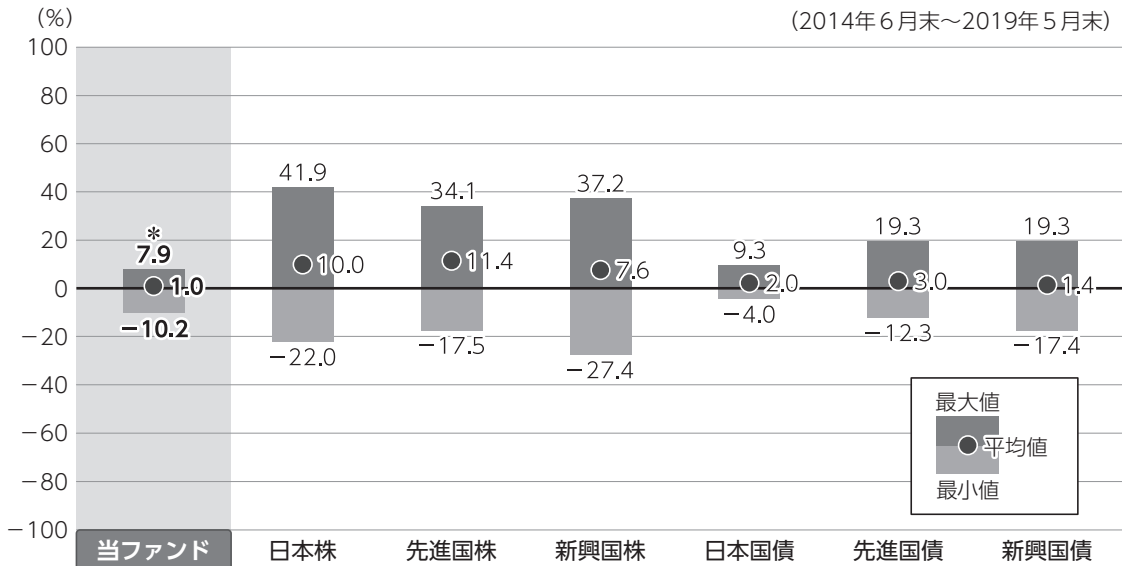
- ・2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。

\*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。  
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2027年3月12日まで (2017年2月7日設定)
運用方針	利子収益および配当収益の確保ならびに値上がり益の獲得をめざして運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券
運用方法	<p>日本を含む世界各国の株式、債券、リートおよび金に分散投資を行います。目標リスク水準を年率標準偏差12.0%とします。(目標リスク水準は、当ファンドの変動リスクの目処を表示したもので、当ファンドのポートフォリオを構築する際の目標値として使用します。)</p> <p>三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 投資顧問部からアドバイスを受け、運用を行います。</p> <p>金の投資信託証券の組入部分については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。</p>
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。(資金動向や市況動向等により変更する場合があります。)</p>

## ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2014年6月から2019年5月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

\*ファンドについては2018年2月～2019年5月の同様の騰落率を表示したものです。

### 各資産クラスの指数

日本株	TOPIX（配当込み）
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
日本国債	NOMURA-BPI（国債）
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本）
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

# 当該投資信託のデータ

2019年6月13日現在

## ▶ 当該投資信託の組入資産の内容

### 組入ファンド

(組入銘柄数：11銘柄)

ファンド名	第10期末 2019年6月13日
MUAM 外国株式インデックスファンド (適格機関投資家限定)	20.2%
MUAM インデックスファンドTOPIXi (適格機関投資家限定)	11.3%
日本株式最小分散インデックスファンド (適格機関投資家限定)	11.0%
先進国株式最小分散インデックスファンド (適格機関投資家限定)	10.2%
先進国株式クオリティ・インデックスファンド (適格機関投資家限定)	10.0%
先進国リートインデックス・ファンド (為替ヘッジなし) (適格機関投資家限定)	4.4%
国内リートインデックス・ファンド (適格機関投資家限定)	3.9%
MUAM 外国債券インデックスファンド (適格機関投資家限定)	0.4%
MUAM 日本債券インデックスファンド (適格機関投資家限定)	0.4%
MUKAM 日本超長期国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	0.2%
国内物価連動国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	0.1%

※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

※上記のうち、上位3ファンドについては、「組入上位ファンドの概要」を後掲しています。

### 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：4銘柄)

	銘柄	比率(%)
1	iシェアーズ ゴールド・トラスト	16.2
2	iシェアーズ J.P.モルガン・米ドル建てエマージング・マーケット債券ETF	8.4
3	iシェアーズ エッジ MSCIミニマム・ボラティリティ・エマージング・マーケットETF	0.8
4	iシェアーズ MSCI エマージング・マーケットETF	0.8
5		
6		
7		
8		
9		
10		

※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

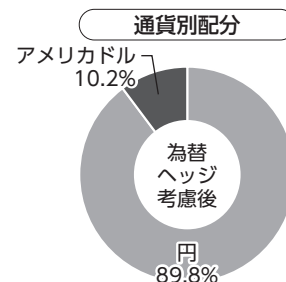
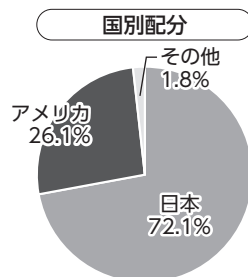
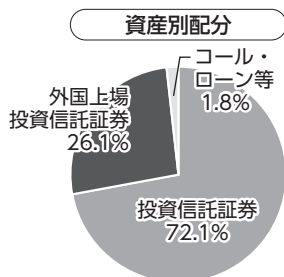


## 純資産等

項目	第9期末 2019年3月13日	第10期末 2019年6月13日
純資産総額 (円)	707,890,808	606,472,209
受益権口数 (口)	723,890,518	618,979,377
1万口当たり基準価額 (円)	9,779	9,798

※当作成期間中（第9期～第10期）において追加設定元本は 9,507,285円  
同解約元本は222,940,618円です。

## 種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】は、発行国を表示しています。

851473

2019年5月13日現在

組入上位ファンドの概要

▶ MUAM 外国株式インデックスファンド (適格機関投資家限定)

基準価額の推移

2018年5月14日～2019年5月13日



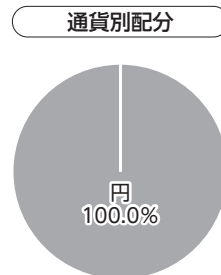
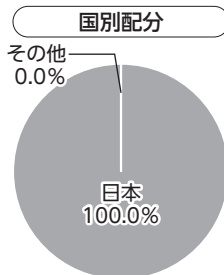
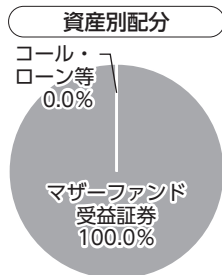
組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第12期末 2019年5月13日
外国株式インデックスマザーファンド	100.0%

※比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

2018年5月15日～2019年5月13日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	45	0.248	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	(31)	(0.173)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(4)	(0.022)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	(10)	(0.054)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.008	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
( 株 式 )	(1)	(0.004)	
( 投 資 信 託 証 券 )	(0)	(0.000)	
( 先 物 ・ オ プ シ ョ ン )	(1)	(0.004)	
(c) 有価証券取引税	5	0.030	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
( 株 式 )	(5)	(0.029)	
( 投 資 信 託 証 券 )	(0)	(0.001)	
(d) その他費用	5	0.028	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	(4)	(0.024)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( そ の 他 )	(1)	(0.004)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	57	0.314	

期中の平均基準価額は、18,140円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

968364

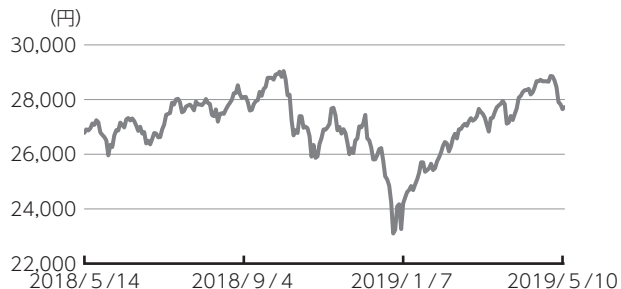
2019年5月13日現在

組入上位ファンドの概要

▶ 外国株式インデックスマザーファンド

基準価額の推移

2018年5月14日～2019年5月13日



1万口当たりの費用明細

2018年5月15日～2019年5月13日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)売買委託手数料	2	0.008
(株 式)	(1)	(0.004)
(投資信託証券)	(0)	(0.000)
(先物・オプション)	(1)	(0.004)
(b)有価証券取引税	8	0.030
(株 式)	(8)	(0.029)
(投資信託証券)	(0)	(0.001)
(c)その他費用	8	0.028
(保管費用)	(7)	(0.025)
(その他)	(1)	(0.004)
合計	18	0.066

期中の平均基準価額は、27,083円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

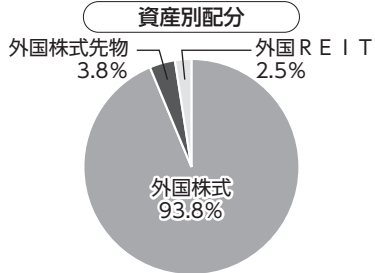
(組入銘柄数：1,315銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	APPLE INC	株式	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.4
2	MICROSOFT CORP	株式	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.4
3	AMAZON.COM INC	株式	アメリカ	小売	2.0
4	FACEBOOK INC-CLASS A	株式	アメリカ	メディア・娯楽	1.2
5	JPMORGAN CHASE & CO	株式	アメリカ	銀行	1.0
6	JOHNSON & JOHNSON	株式	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.0
7	ALPHABET INC-CL C	株式	アメリカ	メディア・娯楽	1.0
8	ALPHABET INC-CL A	株式	アメリカ	メディア・娯楽	0.9
9	EXXON MOBIL CORP	株式	アメリカ	エネルギー	0.8
10	NESTLE SA-REG	株式	スイス	食品・飲料・タバコ	0.8

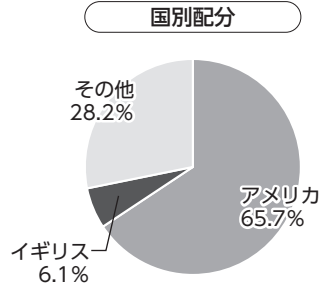
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。  
※REITを含めて表示しています。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

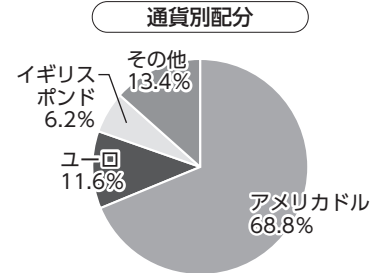
## 種別構成等



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。  
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。



※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。



851876

2019年2月14日現在

組入上位ファンドの概要

▶ MUAM インデックスファンドTOPIXi (適格機関投資家限定)

基準価額の推移

2018年8月14日～2019年2月14日



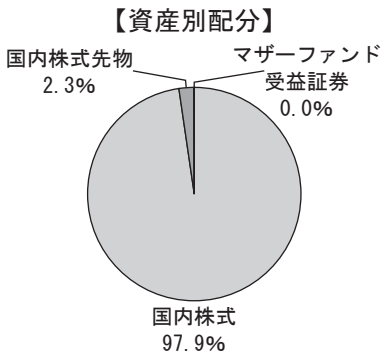
組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

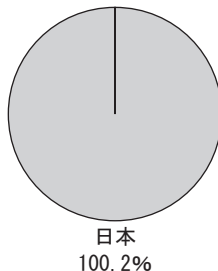
ファンド名	第11期末 2019年2月14日
TOPIXマザーファンド	0.0%

・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

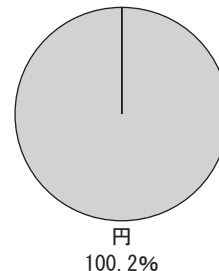
種別構成等



【国別配分】



【通貨別配分】



・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。  
 ・【国別配分】、【通貨別配分】は、発行国、発行通貨を表示しています。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：2,126銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	トヨタ自動車	株式	日本	輸送用機器	3.2%
2	ソフトバンクグループ	株式	日本	情報・通信業	1.9%
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	日本	銀行業	1.7%
4	ソニー	株式	日本	電気機器	1.5%
5	日本電信電話	株式	日本	情報・通信業	1.3%
6	キーエンス	株式	日本	電気機器	1.3%
7	武田薬品工業	株式	日本	医薬品	1.2%
8	三井住友フィナンシャルグループ	株式	日本	銀行業	1.2%
9	本田技研工業	株式	日本	輸送用機器	1.1%
10	みずほフィナンシャルグループ	株式	日本	銀行業	1.0%

・比率は純資産総額に対する割合です。  
 ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

1 万口当たりの費用明細

(2018年 8 月15日～2019年 2 月14日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	11円	0.076%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数)
(投信会社)	( 7)	(0.049)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	( 2)	(0.016)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	( 2)	(0.011)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.002	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株式)	( 0)	(0.000)	
(先物・オプション)	( 0)	(0.002)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
(その他)	( 0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	11	0.079	
期中の平均基準価額は、14,142円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 組入上位ファンドの概要

### TOPIXマザーファンド

(2018年3月26日現在)

#### 基準価額の推移



#### 組入上位10銘柄

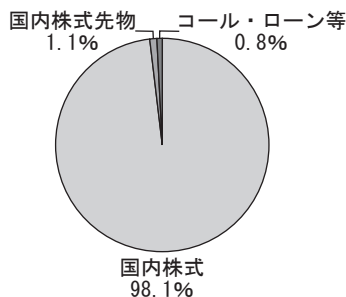
(組入銘柄数：2,057銘柄)

順位	銘柄	種類	国	業種／種別	比率
1	トヨタ自動車	株式	日本	輸送用機器	3.3%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	日本	銀行業	2.0%
3	ソフトバンクグループ	株式	日本	情報・通信業	1.5%
4	日本電信電話	株式	日本	情報・通信業	1.4%
5	ソニー	株式	日本	電気機器	1.4%
6	三井住友フィナンシャルグループ	株式	日本	銀行業	1.4%
7	本田技研工業	株式	日本	輸送用機器	1.3%
8	キーエンス	株式	日本	電気機器	1.3%
9	任天堂	株式	日本	その他製品	1.2%
10	みずほフィナンシャルグループ	株式	日本	銀行業	1.1%

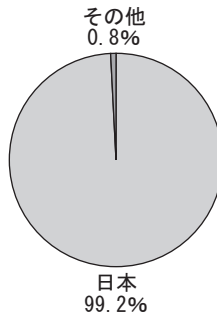
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

#### 種別構成等

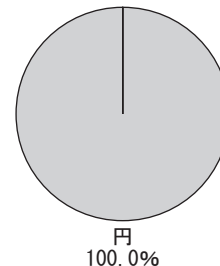
##### 【資産別配分】



##### 【国別配分】



##### 【通貨別配分】



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

#### 1万口当たりの費用明細

(2017年3月28日～2018年3月26日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	0円	0.002%
(株式)	(0)	(0.001)
(先物・オプション)	(0)	(0.002)
(b) その他費用	0	0.000
(その他)	(0)	(0.000)
合計	0	0.002

期中の平均基準価額は、17,507円です。

- (注) 1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のもので、費用項目の概要については、3ページの注記をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

968294



## 組入上位ファンドの概要

日本株式最小分散インデックスファンド (適格機関投資家限定)

(2018年10月29日現在)

### 基準価額の推移



### 組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第2期末 2018年10月29日
日本株式最小分散インデックスマザーファンド	100.0%

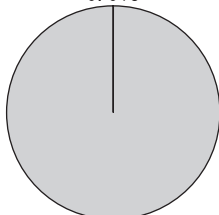
・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

### 種別構成等

#### 【資産別配分】

コール・ローン等

0.0%

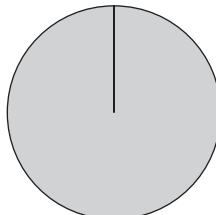


マザーファンド受益証券  
100.0%

#### 【国別配分】

その他

0.0%



日本  
100.0%

#### 【通貨別配分】

円  
100.0%

- ・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。
- ・【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

1万口当たりの費用明細

(2017年10月31日～2018年10月29日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	33円	0.253%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投信会社)	(29)	(0.220)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(0)	(0.001)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(4)	(0.031)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株式)	(0)	(0.000)	
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	33	0.255	
期中の平均基準価額は、13,184円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

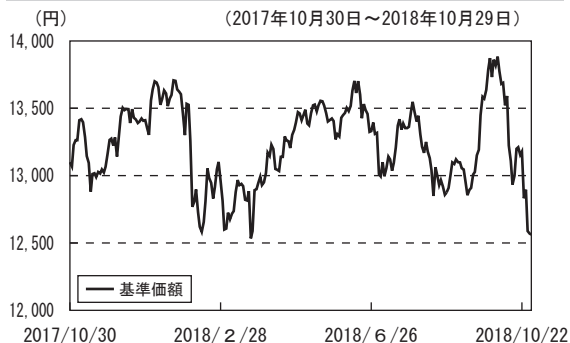
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 組入上位ファンドの概要

### 日本株式最小分散インデックスマザーファンド

(2018年10月29日現在)

#### 基準価額の推移



#### 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：145銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	セコム	株式	日本	サービス業	1.7%
2	日本郵政	株式	日本	サービス業	1.7%
3	アステラス製薬	株式	日本	医薬品	1.6%
4	NTTドコモ	株式	日本	情報・通信業	1.6%
5	近鉄グループホールディングス	株式	日本	陸運業	1.6%
6	名古屋鉄道	株式	日本	陸運業	1.6%
7	東海旅客鉄道	株式	日本	陸運業	1.6%
8	日本マクドナルドホールディングス	株式	日本	小売業	1.5%
9	日本航空	株式	日本	空運業	1.5%
10	KDDI	株式	日本	情報・通信業	1.5%

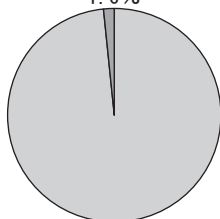
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

#### 種別構成等

##### 【資産別配分】

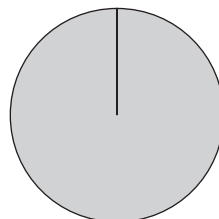
国内株式先物

1.6%



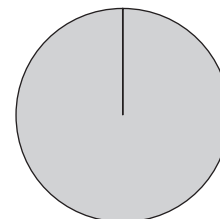
国内株式  
98.9%

##### 【国別配分】



日本  
100.5%

##### 【通貨別配分】



円  
100.5%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

#### 1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	0円	0.001%
(株式)	(0)	(0.000)
(先物・オプション)	(0)	(0.000)
合計	0	0.001
期中の平均基準価額は、13,233円です。		

(2017年10月31日～2018年10月29日)

- (注) 1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のもので、費用項目の概要については、3ページの注記をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

291209

# 指数に関して

## ▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

### ● TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

### ● MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ● MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ● NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

### ● FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ● JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。